

Ladder

平成22年8月26日 第8号

北海道教育庁学校教育局

参事(生徒指導・学校安全)

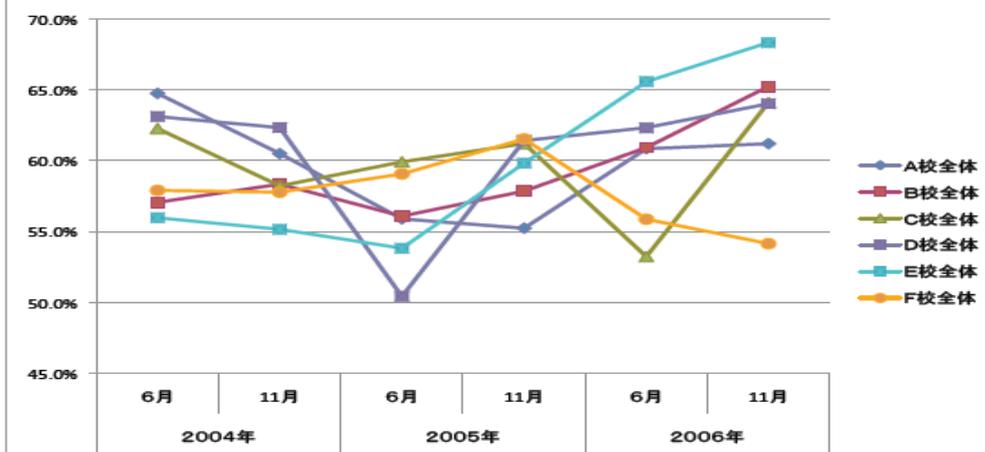
中1ギャップ・高1クライシスを解消するために

Q 「いじめはこの学校にも起こり得る」とは、どのようなデータによるものですか。

国立教育政策研究所の「いじめ追跡調査」では、いじめの被害の経験率(仲間はずれ、無視、陰口)は、「特定の学校により多く起きている」、「地域的な格差がある」とは言えない状況が明らかとなっています。

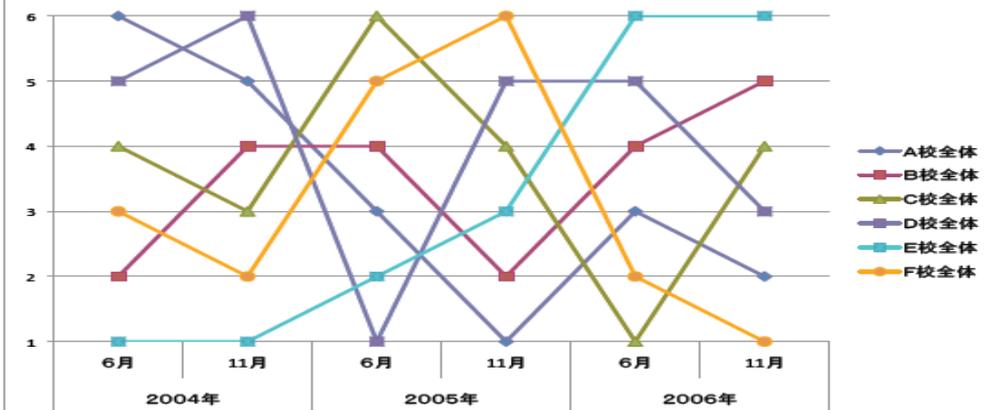
このため、いじめが多い学校でもそれを減らすことは可能であること、反対に少ない学校といえども、半年後に多くならないという保証はないことを踏まえ、いじめの対応については、「どの学校にも起こり得るもの」という意識で臨むことが必要です。

被害「経験なし」比率の学校別推移



左図は、中学校において「仲間はずれ、無視、陰口」の被害経験が「ぜんぜんなかった」と答えた生徒の割合の3年間の推移

被害「経験なし」比率のワースト順位



左図は、上段の経験率の代わりに、それを順位(A校からF校までのワースト1~6)で示し、その入れ替わりを示したもの

いじめ追跡調査(2004-2006、2007-2009) Q & A

国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは、平成18年秋のいじめの社会問題化を受け、大都市近郊にあり、住宅地や商業地のみならず、農地等も域内に抱える地方都市の小・中学校19校に在籍する児童生徒全員(小学校4年生以上)を対象に、同じ内容を尋ねた定点観測的な調査を年2回定期的の実施し、学校現場等で役立つような知見を取りまとめています。

これらの調査結果は、「いじめ追跡調査2004-2006 Q & A」(平成21年)、「いじめ追跡調査2007-2009 Q & A」(平成22年)として刊行され、すでに当該センターから各学校等に配布されるとともに、<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/3.htm>からダウンロードも可能であり、各学校等での研修での活用が期待されています。

「Ladder」は学校間の接続を図る「はしご」を意味しています。